

我が国における Cadaver Lab普及への課題

平成28年2月16日

千葉大学大学院医学研究院
環境生命医学
鈴木崇根

実施した手技教育(平成28年1月まで)

講座	テーマ	参加人数
整形外科	人工関節置換術、関節鏡、脊椎除圧固定術、 創外固定、複合組織移植ほか多数	180
口腔科学	上顎歯肉悪性腫瘍切除術、下顎枝矢状分割術、 頸部リンパ節郭清術、舌再建術ほか多数	21
耳鼻咽喉科	鼻副鼻腔手術、中耳側頭骨手術	29
脳神経外科	経蝶形骨洞手術、経脳室鏡手術	46
救急集中治療 医学	創外固定、緊急開胸・開腹手術、肺・脾・腎摘出術ほ か多数	14
5講座16件	基本的に希望した全ての手技を実施可能	290(昨年254) 内訳外部171(昨年114)

1

Cadaver Labとしての実績

- 教育は3月にあと2件予定している
- 研究も例年通り実施中(他大学との共同研究2件)
- 合計で参加者は350名を超えることが予想される

- ニーズは増加の一途
- 再来年の開催依頼まで受けるようになる

2

前回残った課題

- 倫理審査によるタイムラグ

- 外部医師参加の促進

- 必要経費に関して

- マンパワー

3

倫理審査によるタイムラグ

- 迅速審査にすることで概ね解決
- 本学では迅速審査はメール審議となるが、審査委員がいつ返事をするかで期間が一定でない

→今後の課題

患者の状態が急速に進行中で、翌週にでも手術が必要な場合に、迅速審査でも対応できない可能性が残る
希な術式の場合、事前に教育できれば、医療安全の点でメリットは最大となる

4

外部医師の参加促進

- 参加者数は全体でも増加、外部施設からも増加
- 新規に外部団体との共催を2回実施(全国公募)

→今後の課題

外部団体では内部の準備は不可能

大学スタッフの協力が必要(労働に対価が払えない)

学会等からの問い合わせ増加、御遺体が既に不足傾向

(より多くの医学部で実施可能となる必要性)

5

必要経費に関する問題

- 委託研修事業費減額
- 設備の故障
 - 平成26年度のスコープ破損(70万円)
 - 平成27年度冷凍庫故障(現在見積もり中)

6

必要経費に関する対応

- 参加者数に応じて主催講座の奨学寄付金から運営費を徴収(参加者から徴収するかどうかは主催講座に一任)
 - 個人消耗品費(ガウン・手袋等一式)4,000円
 - 施設管理費6,000円(不足する財源とする)

→今後の課題

それでも金額は十分とは言えない

基本的に御遺体数を多めに参加者数は抑える傾向あり

(教育密度を上げるため)

参加者数に比例した予算とは別に献体数に比例した施設維持費などの導入を検討する必要がある

(タイのチェンマイ大学でも献体は無償であるが、献体の維持、施設維持を目的とした使用料を献体数に比例して設定している)

7

マンパワー

- 新潟大学でも運営費交付金減額により教員補充を凍結(報道より)
- 本学でも既に解剖学教員は減員
- さらに解剖学兼任教員も4月から2人退職

→今後の課題

運営費交付金経由の大学教員の増加は到底見込めない

臨床医の教育として他の財源(病院?厚生労働省?)で解剖学教室(Cadaver Lab)で働く医師が必要

企業等の支援の道筋を定める必要がある

(非営利の基準策定)

8

ご静聴ありがとうございました

9